

新潟県

平成3年

公民館月報

4月
第458号

公民館探訪 木沢地区の陶芸教室



ハナ ハト マメ マス から
サイタ サイタ
サクラガサイタ になり
日本は戦争に突入していった。
花は桜木 人は武士
七つボタンは桜に鑑
花の散り際のいさぎよさからか
勝手に軍国のシンボルに
まつりあげられ
不本意だったのだろう
薄紅色の花は
戦後の平和の継続を願うように
美しく咲いている。

遠藤 春子
（新潟市 地平の会）

加治川村の椽平桜樹林
文部省指定天然記念物

『生涯学習時代の

公民館の役割』をテーマに

関プロ公研集会の成功を!!

平成三年度がいよいよ始まりました。県公民館連合会では、関東甲信越静公民館研究集会の主管県として、集会の成功を最大の目玉事業としている。

このことについては、去る二月十二日開催の関プロ公連理事会の議を経て、開催要項が決定されておき、近く組織化される実行委員会の結成を見て、具体的な事務が進められることになつてゐる。全県あげての協力

が望まれるところである。なお、研究集会の第一日のメインとなる分科会の研究内容ならびに、発表・司会・助言は次の表のとおりである。

分科会主題	研究討議課題	発表・司会・助言
第1分科会 青少年の学習と公民館	○少年の校外(余暇)活動や団体活動をどう進めるか ○青年の団体育成と社会参加の活動をどう進めるか	新潟県
第2分科会 成人の学習と公民館	○社会化に対応した成人(男子)の学習活動をどう進めるか ○成人(男子)の学習参加をどう進めるか	新潟県
第3分科会 婦人の学習と公民館	○女性の地位向上のための活動をどう進めるか ○地位における社会参加の活動をどう進めるか	栃木県
第4分科会 高齢者の学習と公民館	○高齢者の生きがいを高める学習活動をどう進めるか ○高齢者の社会参加をどう進めるか	群馬県
第5分科会 家庭教育と公民館	○家庭教育の学習機会を拡充するにはどうしたらよいか ○家庭教育促進のための地域ネットワークづくりをどうしたらよいか	新潟県
第6分科会 文化活動と公民館	○地域文化の掘り起こしや創造をどう進めるか ○文化団体の活動や育成をどう進めるか	山梨県
第7分科会 地域づくりと公民館	○地域課題の掘り起こしや、リーダーづくりをどう進めるか ○地域における連帯意識の醸成をどう進めるか	千葉県
第8分科会 健康づくりと公民館	○健康と安全に関する学習をどう進めるか ○スポーツ・レク活動をどう進めるか	新潟県
第9分科会 人権学習と公民館	○人権尊重の学習をどう進めるか ○人権教育を公民館の学習にどう位置づけたいか	新潟県
第10分科会 社会福祉と公民館	○地域における福祉ボランティアをどう育てるか ○福祉施設、団体との連携をどうすすめるか	長野県
第11分科会 国際化社会と公民館	○国際理解の学習をどう進めるか ○市民レベルでの交流活動をどう進めるか	神奈川県
第12分科会 情報化社会と公民館	○情報化社会に対応する公民館のありかた ○情報の収集・提供活動をどう進めるか	静岡県
第13分科会 高齢化社会と公民館	○高齢化社会に対応する学習をどう進めるか ○世代間交流をどう進めるか	茨城県
第14分科会 公民館の管理運営(都市)	○住民サービスの向上と管理運営について ○職員の充実と専門性について	東京都
第15分科会 公民館の管理運営(町村)	○住民サービスの向上と管理運営について ○職員の充実と専門性について	新潟県
第16分科会 運営審議会のあり方(都市)	○公選審委員の役割について ○公選審の活性化について	新潟県
第17分科会 運営審議会のあり方(町村)	○公選審委員の役割について ○公選審の活性化について	埼玉県

郡・市公連

事務局長会議開催

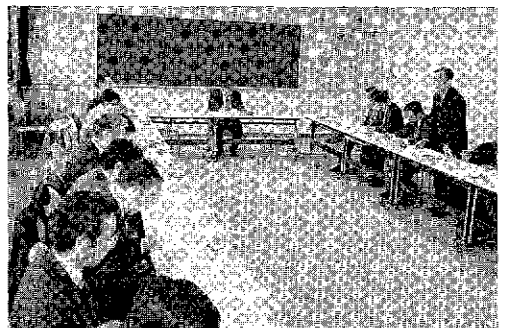
三月六日(木)、新潟市関屋地区公民館を会場に、郡市公連事務局長会議が開催された。

参加者二十二名が午前十一時から午後三時半まで、熱心な情報交換や研究協議が進められた。特に研究協議では

- 公選審委員の活動について (柏崎市)
- 青年大会の選手の選び方 (出雲崎町)
- 青年対象事業の活性化について (村上市)

○県公連主事部会の設置に関するその後 (十日町市)

について、各地の実際と、望ましい方向が話し合われた。



公民館関係法令・解説

新任の公民館職員のみなさんにおすすめする必携の一冊!

◎内容

教育基本法・社会教育法・社会教育法施行令・公民館の設置及び運営に関する基準規程・通達「公民館基準の取扱いについて」解説つき。

A 5判34ページ 1部300円(送料実費)

◎お申し込み先

〒951 新潟市川端町2-9 県林業会館内
県公民館連合会事務局 電話 025(224)6073

生涯学習推進課四月一日に発足

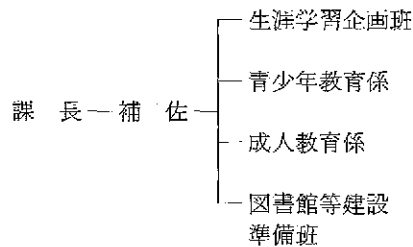
県教育庁生涯学習推進課の設置にともなうその意図ならびに組織について、次のとおりコメントをしてみました。

県教育委員会では、このたび生涯学習推進体制の一環として、従来からの「青少年教育係」「成人教育係」及び「図書館等建設準備班」に「生涯学習企画班」を加えて、「社会教育課」を「生涯学習推進課」に再編いたしました。

社会の変化に主体的に対応し、活力ある社会を築いていくためには、学校教育や社会教育のみならず職業能力開発や社会

「生涯学習推進課」においては、生涯にわたる学習機会の提供等生涯学習のための重要な役割を担う社会教育を引き続き担当するほか、全庁的な生涯学習に関する施策の調整や基本構想

【生涯学習推進課】



の策定等に取り組んで行くこととしておりますので変わらぬご支援をお願い致します。

辛口

文部省では、平成元年三月に学習指導要領の改訂と学校教育法の一部改正を行った。

新しい教育課程の基準は平成四年度の小学校から順次実施される。今回の改訂は、これ

教育課程の改訂に

青木昭平

学ぶことの楽しさや成就感を体得させ、自ら学ぶ意欲を育てるため体験的な学習や問題解決的な学習を行うことをめざしている。

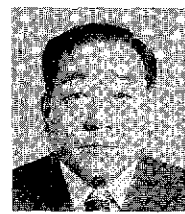
自己教育力の育成は、

されることである。学ぶことの楽しさを体得させるためには基礎的・基本的な内容を確実に身につけるための工夫とともに、児童・生徒の個性を生かすためのきめ細かい指導上の配慮が強く望まれるところであろう。

(黒崎町教育長)

旅に学ぶ

板垣 清



「あなたのご趣味は」なんて突然聞かれるとハタと戸惑ってしまう。どう考えても私には誰にも通用するような趣味らしいものがない。囲碁、花づくり、野山歩き釣り等々、それに最近ではスポーツらしいものも特に上げられるものがない。

ひろば

旅行は言うまでもなく大へん勉強になる。他の土地から故郷を眺めてみると、自分の住んでいる所の良いところ、良くないところがよく判る。私の住んでいる村上は、自然に恵まれ、歴史や伝統の息づいている町であるが、どうも活気に乏しく、文化的環境が劣っているように思える。旅行して他の地方からみると、それらを改善する視野がいくらか開けてくる。

最近、私も町内の区長や市の生涯学習・福祉計画等の役もいろいろと地域活性化のためにならばと頑張っているつもりであるが、その間でも時々旅に出たい衝動にかられている。

(村上市中央公民館 運営審議会委員長)

旅行に行った先でも地図などを頼りに歩いてみる事が多く時には裏道に入り込んで思わぬ時間を浪費することもあるが、観光ガイド等に載っていない社寺や名勝を訪ねた時は、自分だけが何か拾いものをしたような気がして満悦することがある。

国内でまだ行ったことのない

この「陶芸教室」は、平成元年の県公民館大会(長岡大会)のおり、パネル討議に参加された小野庸子氏(川口町木沢小学校教頭当時)の提供された実践と、その後の二年間の歩みを補足したものである。この「教室」の特色は、学校の教育活動の一環としての「陶芸」にとどまらず、地区の公民館活動としても機能していることにある。

いま、生涯学習社会の到来を迎え、公民館の周辺では「地域づくり」や、「学・社連携」の必要などが大きくクローズアップされていることから「木沢地区の陶芸教室」をあらためて探訪してみた。(K)

の陶芸教室

をめざして

はじめに

魚野川が信濃川に合流する地点が川口町である。この町の中心部から6料ほど山間に入ったところに木沢地区がある。豪雪と過疎に悩む農山村である。戸数65戸人口219人。地区の公民館は小学校に併設されている。

ここで地の利を生かした「陶芸教室」が数年前から開設され、地域の活性化と人の和に大きな役割を果たしている。

この陶芸教室の開設は、過疎地に生活する人々が「自分の住む地域への愛着」を持ち「自分の生活への自信を深める」ことができ、更には「生きがいのある生活」をする必要がある。そのため「何かできるものはないか」と模索していたことに端を発している。

たまたま、木沢地内に陶土として使えるような粘土が見つかったこと。その粘土で試し焼きをするうちに比較的味わいのある「やきもの」が出来ることが分かった。粘土が見つかって間もなく赴任された小野氏が講師となつて「陶芸教室」を開設することになったのである。

受講者は70歳から24歳までと幅が広く、熱心に作品作りに動んでいる。木沢地区の人々に加えて町の中心部から参加する

人も増えている。

この陶芸教室では材料、道具の用意のほとんどを自前でしていることが特色である。「原土の掘り出し」から「土作り」や「釉



薬作り」とそれぞれの生活の知恵と技術を生かしながら力を合わせている。

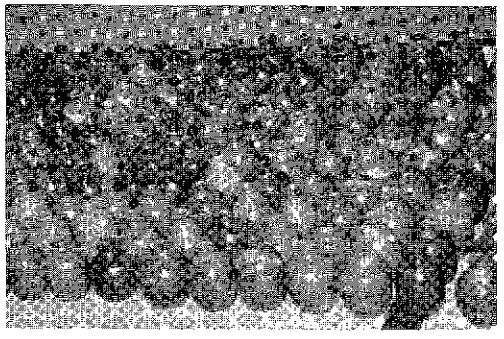
原土の掘出し作業は七、八月の湧水期をねらって行うとか、土づくりには地区の年配の女性の冬期間(降雪期)の仕事としてというように生活の暦と農作業の暦をうまくかみ合わせながらリズムを作っている。

教室開設後三年を経過している。初案の作品から「木沢焼」と命名し、土の匂いのする素朴な味わいによって親しまれるようになったという。平成二年二

月には、町で発送する「ふるさと便」の商品として採用され二百個の一輪挿しを共同制作し、川口町出身の都会暮らしの人々に喜ばれたという。このように、地域おこしの役割の一端を果たしてもいるということである。

「陶芸教室」の実際

公民館の教室や講座という一般に、10時間とか20時間といった限られた時間になっていることが多い。これだとお互いによりやく気心が分かってきたと思うところに講座は終了となつて、あとは自主グループを作つて自分たちでやりなさいと、突放してしまう。この公民館の「陶芸教室」の場合は、週2回(個々の受講者としては週1回



を建前としているが、希望するものは二日通つてもいいことにしており)通年やっているのが特色である。というのは、最近では高品質化の傾向にあるので20時間程度では短すぎ、入門編で終わってしまうおそれがあるからだという。また、二年・三年と長期にわたり、粘ばっこくやるのが大事なのだともいう。

小野庸子氏は、更に地域活動としての「陶芸教室」について次のように話してくれた。

「この学習活動の中で人間同志の関わりができてきます。時には、対立の危機的場面があったわけでもありません。何しろ70歳から24歳までの年齢層の、しかも、色々なお仕事を持った方々がおられますので、価値観も違いますし、人生経験も違います。ですから、考え方がなかなか合わないこともありますが、頭を抱え、潜りこみみたいような気分になったこともありましたが、そういうことを乗り越えて、人と人との繋がりがうんと強固なものになって、さらに大きな問題にぶつかって、それを乗り越えていかれるような気がいたします。」と。

地区の活性化に向けて

「木沢焼」ができてから地域の人々の話題が変わってきたと

公民館探訪

木沢地区

地区の生活化

もおっしゃる。その点が公民館の学習活動の最も重要な部分である。そこで、どのように変わってきたのかを更に尋ねてみた。

「手作りのお皿に山菜や漬物を盛って、その映りを楽しんだり、花瓶に花を活けて美しさを愛でたり、自分の作品を喜んでくれた人の話をするなど話題は尽きない。そうしながら、人と人との輪が広がっています。過疎の地域の木沢には、今のところあまり明るい話題は少ないのですが、木沢ならではの」というものを探すことによって元気を出そうとしているのです。

陶芸教室を始める時に、むら人は「おらたちは、そういうこ

と全然経験が無いんだ。そっけなこと言っちゃって先生、できるかねえ！」と心配したのでした。が、「おまえさん方、泥わっさ(悪戯)したことがあるだろね、一度来てみて試しにやってみてごらんなさい。」というので始めました。やっているうちに興味が湧いてきたようです。話しは違いますが、婦人学級などでも、とっつきにくいテーマもありますけれども、手を変え品を変えてプログラムを提供し、長く続けている中に定着していくのではないかと思います。

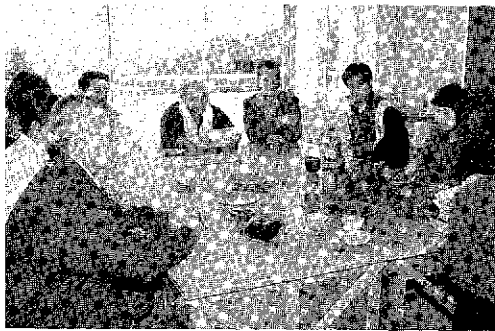
受講者の腰が重いからといって諦めないで、また、どんな時でも、こちらの一方的な都合で、講座を休むということはいけません。ことだと思えます。講座を休まないようにして、とにかく続けることだと思えます。水曜日と木曜日の夜は、学校へ行けば灯りがついていて、いつでも学べるという安心感が、地域の人々の学び続ける保障になると思えます。」と話してくれた。

新たな挑戦

かくして、三年目を迎える頃には、はじめ自信がないと言っていた受講者も腕をあげてきた。

一方木沢小学校の教育活動の一環として行ってきていた「陶

芸」が「特色ある教育活動」として新しい展開をするようになった。これまではプロパンガスで焼成してきたのだが、木沢の自然環境をいかして「穴窯」をつくり薪による焼成に挑戦しようという事になった。勿論、子どもと教員だけではできないようなことではない。受講者もPTAも協力して取りかかるとなった。



で、手間は惜しまずに力を合わせて、「穴窯」を造ろうと作業にかかった。計画から完成まで六カ月かかった、ここでも、いろいろな生活の技術が活かされ

た、溶接の専門家、煉瓦を積む技術、地域の人とともに、始めての左官仕事に若い教員も子どもたちも真剣に取り組んだ。

窯づくりと平行して、薪の用意も始まった。道路工事に伴って伐採したナラが運び込まれた。町の土建業の方の好意であった。四トン車に2台以上の量であった。農繁期の忙しい時期ではあったがPTAの協力も得て、受講生と学校の職員も一緒に薪割をした。



心細さも一入であった。六時間ほどの時間の延長はあったが無事に火を止めることができた。いよいよ窯だしの日は好天の土曜日であった。子どもたちがしゃがんで固唾をのんで見入る中で窯の口の煉瓦がハギとられた。子どもたちは声も出さずに窯の中の作品を見つめている。しばらくして「わぁー！」と小さな声をたてた。その後の大人たちも「きれいだのうー!」「よかった、よかった!」と喜びをいっぱい表していた。

その後、町当局の計らいで窯のうえに二階建の小屋ができた。「木沢窯」となつた。

おわりに

かくして、念願の「木沢窯」ができた。地域の人々による製作活動も一段と活発になった。現在の陶芸教室の代表者星野保男氏は「陶芸の面白さは、なかなか思うようにできないところだ」という。「思うようにすぐできたら面白くない」ともいう。

これからの課題は後継者を育成することである。その点は「人が人を育てていく場だから、地域の人々のチャレンジ精神の中で、この活動が地域に根づいていくことだろうと思う。」という小野氏の言葉を信じて木沢窯を辞去した。

百館百様

全国天領ゼミナールを開催

出雲崎町中央公民館

公民館は、地域の生活に根ざした学習活動をするところとされているが、内容によっては、行政上の市町村を超えて、近隣市町村はおろか全国的な規模での活動を展開することもあつたのである。

出雲崎町中央公民館の「全国天領ゼミナール」がそれである。この学習によって、全国規模での参加者の反応はいうまでもないが、地元町民に大きな成果があつたという。そのあらましを紹介しよう。

一、開催日までの経緯

出雲崎町は、良寛生誕の地、松尾芭蕉が、奥の細道」の途次に「荒海や佐渡に横たふ天の河」の名吟を残した地、江戸幕府の直轄地(天領)としての代官所跡など多くの文化遺産が残された町として多くの観光客が訪れた。

「出雲崎史学会」が天領をテーマにした学習を行いましたところ予想以上の反響がありました。それを機会に、全国的な規模での研究を進める必要が指摘されました。全国各地に置かれた天領と代官所には、おのづと定形的なものがあると思われ、そうしたところのすぐれた研究成果を学んで、出雲崎町の天領に関する研究をしようというものです。

これは町の文化遺産に関する貴重な研究になることから、趣旨を町長に話したところ、快諾を得て特別の予算をつけてもらうことができ実現することになりました。このようにして昭和六十一年九月に第一回全国天領

当初の参加人数の予定は百人を目標にしましたが、正直のところ五十人も集まれば成功と思っていました。更に、遠く大分県、石川県、群馬県、福島県など予想もなかった県外の各地からの参加を得てみな熱心に研究されていたことについて感激しました。

二、事業の実際

出雲崎史学会と町教育委員会との共催事業となり、事務局は公民館係が担当することになりました。そして、出雲崎史学会との打ち合わせの結果作成したのが「表」に示したとおりの「全国天領ゼミナール」の学習プログラムです。

しかし、このプログラムが円滑に作成されたわけではありません。何しろ天領に関する、学習プログラミンの知識も情報も乏しかったからです。幸いにも、昭和三十六年当時、「出雲崎代官所の研究」で町を訪れたこのある法政大学史学部の村上直教授を知り、基調講演を依頼するとともに、天領ゼミナールの運営について多くの示唆をいただくことができました。

村上教授は「天領研究を全国規模で開催することを以前から夢み、機関誌の発行も考えていた」と熱く話されるほどの力を入れようでした。更に、村上教授の紹介で、全国各地で天領を研究している人や研究会を知ることができました。したがって、開催要項は、全都道府県教育委員会、全国の天領、代官所のあつた市町村、県下公民館へ発送することにしました。

「講師との交流の夕べ」では、「出雲崎の街並が天領と深いかわりがあるのではないかと？」「佐渡金山から送られた金銀の揚陸地と蔵の位置がどこであったのか？」などいろいろと地元の関係者に質問が投げかけられた。その結果として、「越後出雲崎街並研究会」が結成されたり、新潟大学図書館の出雲崎町の絵図面に「御金蔵：佐渡金山から送られた金銀を一晩取めた蔵」が記されていることが分かったりと大きな成果がありました。

三、この事業から得たもの

第一回全国天領ゼミナールの「講師との交流の夕べ」では、「出雲崎の街並が天領と深いかわりがあるのではないかと？」「佐渡金山から送られた金銀の揚陸地と蔵の位置がどこであったのか？」などいろいろと地元の関係者に質問が投げかけられた。その結果として、「越後出雲崎街並研究会」が結成されたり、新潟大学図書館の出雲崎町の絵図面に「御金蔵：佐渡金山から送られた金銀を一晩取めた蔵」が記されていることが分かったりと大きな成果がありました。

「出雲崎町中央公民館」によって代官所の変遷や、町の歴史を知る機会を得て大好評を博すことができたこと、県内外の研究者との交流を得られたことで高い評価を得ることができました。

（出雲崎町中央公民館 社会教育主事磯部友記雄記）

全国天領ゼミナール開催要項

第一回 昭和60年9月7日(土)～8日(日)	基調講演「江戸幕府の郡代代官」	法政大学史学部教授 村上直
	「近世出雲崎の展開。出雲崎町史編纂委員会」	県立柏崎高校教諭 渡辺孝之
	「天領を考える」	新潟県史編纂委員 田中圭一
	「出雲崎における文化発展の一考」	郷土史家 出雲崎町史編纂委員 磯野省一
	「天領と良寛」	郷土史家 良寛研究家 北川省一
	「私の行政活動とその方法—行政区画を誌えての活動」	前佐渡郡小町町長 金子繁
第2回 昭和61年6月14日(土)～15日(日)	基調講演「江戸幕府代官資料の性格」	法政大学史学部教授 村上直
	「大久保長安について」	佐渡高校教諭 小管徹也
	「陸奥代官の成立とその展開」	菅田田島 繁夫
	「支配機構の一考察」	倉部 圭一
	「私説良寛」	新潟県史編纂委員 田中圭一
	「幕領小名浜代官の一考察」	福島県いわき市史編纂室係長 小野佳秀
	「天領出雲崎と大工集団」	北川 圭一
第三回 昭和62年8月22日(土)～23日(日)	基調講演「江戸幕府直轄領(天領)の地域的特質」	法政大学史学部教授 村上直
	「関東地域を中心に」	
	「江戸幕府勘定所と天領」	東洋大学文学部教授 大野瑞男
	「江戸幕府の佐渡支配」	主として経済政策について—
		新潟県立佐渡高校教諭 児玉信雄
	「幕領小名浜代官の一考察」	福島県いわき市史編纂室係長 小野佳秀
	「越後水原、会津田嶋代官平岡文次郎の会津南山麓民衆経済」—八十里越新道開拓を中心に	新潟県史編纂室参事 桑原幸
		出雲崎町教育委員会
第四回 昭和63年8月20日(土)～21日(日)	「越後佐渡の天領民の生活と思想」	筑波大学教授 田中圭一
	「佐渡にみる畠山都市成立の要因—しもじもの視点から」	佐渡博物館歴史部長 磯部欣三
	「近世初記における畿内幕領の成立と支配機構」	青森中央短期大学助教授 和泉清司
	「天領についての基本的考察」	法政大学文学部教授 村上直

サークル交流

「人形劇をライフワークに」

紫雲寺町「人形劇サークル」どらのこ
人形劇が大好きな仲間達が、
毎週火曜日公民館のサークル室
に集まって、人形作りや操作の
練習をしています。メンバーは
11名。出し物も増えて声がかか
れば、どこへでも出かけます。
「どらのこです」と名乗ると
「えっ！どらねこ？」と必ず聞
き返されるのですが、実は東京
のプロの人形劇団「どら」の宮
原太刀先生から名付けていただ
いたのです。どらのこになって



10周年の記念に紫雲寺に伝わる
哀しい清湯の伝説を上演しまし
た。公演を終えた時の感激は忘
れられません。教育長、館長さん
も一緒に涙して下さって人形劇
を続けていて良かったと思いま
した。それにしても年々、セリ
フ覚えには苦労していますが、
子どもたちの声、素朴な心根に
励まされて、本番になると皆は
りきってしまっています。今、中条と
三条公演にむけて準備を進めて
います。不思議なつぼのお陰で
子沢山になる愉快なストーリーリ
ですが、子ども達の輝く目を楽
しみに練習しています。

(須貝美保子 記)

「お弁当作りで心のふれあいを」

新潟市鳥屋野地区公民館「サザエさん」

少しおっちょこちょいでお人
好しでアットホーム的な「サザ
エさん」が大好きな主婦7人の
グループです。初めての人には
「何のグループ？」ってきかれ
ますが私達はお年寄りの弁当作
りを楽しんでます。昨年11月
より月一回第3土曜日の夕食を
地域の民生委員の協力を得てひ
とりぐらし老人30人に対しての



給食サービスです。

毎回の弁当にちよっとした
お便りとメニュー、次回の案内
そして食後のアンケート、と紙
面での交流を図っています。

◎とてもおいしかった。◎作り
方は？◎朝から待っていた。◎
毎週届けて欲しい……と率直な
意見や短歌で御礼されるなど心
と心の交流が広がっています。
ちなみに三月は花寿し、焼き魚
と季節感と栄養バランスを取り
入れた献立づくりも会員の楽し
みの一つです。お弁当を作る人
↓届ける民生委員↓食べてくれ
る老人。三者一体の地域活動が
大きな友情の輪となりました。
夏場にはこの三者合同の集會を
計画中、今から楽しみです。

(中嶋昌子 記)

金井町公民館主査

鈴木 洋子さん(43歳)

「公民館のおばちゃん」と子
どもたちに慕われる鈴木主査
は、公民館勤務が通算六年で、
正に脂の乗った行動派(でも、
ボディコンも似合うなかなかの
スタイルと美貌)で公民館事業
の推進役として重要な存在。

高校時代、バトミントンの佐
渡のエースとして県大会で活躍



すること数
知れず。こ
の馬力と気
力が生涯学
習時代の公

素顔拝見

新潟市東地区公民館主事補

川島 美都さん(21歳)

フレッシュウーマンの川島美
都さん。名前は「みやこ」と読む。
名前のように優雅でシャイな



持つ公民館
の方々、宜
しく。
初めて担
当した「大

極拳教室」では、申し込みが殺
到の大盛況。お断りの電話にや
んわりと応えていた。

ところが、人生楽ありや苦も
あるさ。二回目的「高齢者教室」
は応募者二桁やっとの大難儀。

公民館事業の天國と地獄を見
た一年目を糧として、平成三年
度の飛躍が楽しみなホープさ
ん。

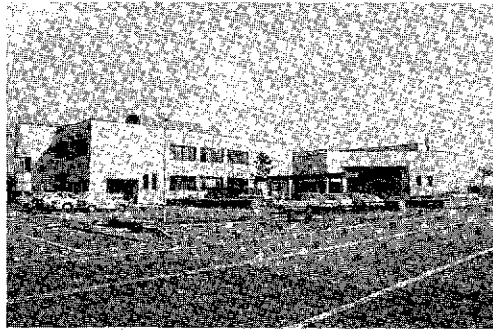
(東地区公民館 小川 昇記)

中越地区公連主催 公民館長・主事研修会

去る二月二十八日(南魚沼郡大和町公民館を会場に、平成二年度中越地区公民館長・主事研修会が開催された。

新築後六年目というように、よっしゃな公民館に、百六十余の公民館長・主事等職員が参加し、熱心な研修が実施された。午前は四分散会(下表参照)に分かれ、ほぼ百分に及ぶ研究討議がなされた。

午後には、葦崎市(山梨県)社会教育課長補佐の貞壁静夫氏により、葦崎市の生涯学習への取



り組みと公民館の役割について、明快な理念と充実した実践の様が紹介された。とりわけ、分館(自治公民館)活動を重要視した取り組みの実際は、極めて多くの示唆に富んでおり、参加者に多大の感銘を与えていた。

分散会

分散会	研究テーマ	発表・司会・記録
第一	公民館長として生涯学習をどう理解し、地域づくりに結びつけるか。	発表 井上 重一 大和町神分館長 司会 森山 新 大和町公民館長 記録 長谷川 廣 大和町公民主事
第二	公民館職員としての、地域活性化のための生涯学習と公民館館長どうするか。	発表 関 佐市 六日町城内分館長 司会 村山 新一 六日町公民館長 記録 白井 健治 六日町社教主事
第三	公民館職員としての、地域活性化のための生涯学習と公民館館長どうするか。	発表 一之谷 修 塩沢町社教主事 司会 小林 英雄 塩沢町長 記録 平賀 渡里 塩沢町主事
第四	公民館職員としての、地域活性化のための生涯学習と公民館館長どうするか。	発表 関 正幸 塩沢町主事 司会 本田 一郎 湯沢町公民館長 記録 佐久間知良 湯沢町係長

まちからあちから

市町村の隠れた名所紹介のコーナーです。

【小千谷市の巻】

小千谷市と言えば、「片貝の花火」が有名ですが、この花火は浅原神社へ奉納された花火なのです。この浅原神社には日本で一番最初に日本相撲協会から認定を受けた屋外土俵があります。

また、近くの越路原に花火工場もあり二尺・三尺・四尺玉の打ち揚げ筒をバックに記念写真はいかががでしょうか。それに、ここから見る景色は素晴らしいですよ。



近くにある米菓工場や餅工場で製造過程も見学できます。あらかじめ連絡を取っておけば安心できます。

コース例 花火工場—浅原神社—米菓工場(餅工場)

詳細は小千谷市公民館へ
電話〇二五八—八二一九—
(小千谷市公民館千昭発)

人間っておもしろい!

グラフおちゃ91

「人間っておもしろい!」というちょっと変わったネーミングのグラフ誌が出版された。小千谷市の市政広報誌「グラフおちゃ91」がそれである。

市民に広報するため、年一回発行しているグラフ誌で、今年の特集として「人」にスポットをあてたものの由 A3判28頁、美しいカラーのページが主力を占めている。発行は市、編集は総務課、発案は公民館であるという。

庄巻は「おもしろ生活名人」で、市の中の名人21人が紹介されているが極めてユニーク。例えば、豆腐づくり名人、木の根っこ利用名人、キノコの見分け名人、むしろづくり名人など市内のあらゆるジャンルについての第一人者の紹介。最近各地で刊行している指導者ガイドブックとは一と味違っており、利用したくなる「広報誌」。

おしらせ

県子ども会連絡協議会の事務局が移転しました。

これまで、県公連と電話を共用していましたが、「ケンコウレン」と「ケンコロン」と時々

間違っただけで戸惑ったものですが、その混乱から解消されることになりました。
転居先 新潟市白山浦二丁目。
新潟県下越婦人会館(三階)
電話〇二五—二三〇—五二九

あとがき

◆桜の便りとともにいよいよ春本番。今月号から新企画として市町村の観光パンフレットに載っていないような「穴場」的な施設や名所をお知らせすることにしました。題して「まちからむらから」です。学級講座やグループ・サークルで実施する他市町村の研修や視察の参考にしてください。手始めに今回は小千谷市の巻です。

あなたのまちの隠れた名所を知らせてください。字数は特に制限しません。掲載は随時。写真の有無も問いません。(土村)

発行所 新潟県公民館連合会
【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟(025)224-6073】
発行人 会長 木下清一
編集人 事務局長 上村 繪二郎
【定価1部 120円 年共 1,440円】